

令和6年度 入学案内

茨城工業高等専門学校

1 創 立 昭和39年4月1日

2 本校の目的

本校は、教育基本法の本質にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養い、有為の人材を育成することを目的とする。また、前述の目的を実現するための教育を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。

3 修業年限 5年

4 国際創造工学科の定員

学 科	入 学 定 員
国 際 創 造 工 学 科	200名

5 国際創造工学科について

平成29年度に、これまでの5学科(機械システム工学科、電子制御工学科、電気電子システム工学科、電子情報工学科、物質工学科)を国際創造工学科の1学科へ統合しました。グローバル化への対応に力を入れた教育を行うと共に、複数の分野を幅広く学ぶことで世界で活躍できるグローバル・エンジニアを育成します。

1年生は、共通カリキュラムのもと、機械・制御工学、電気・電子工学、情報工学、化学・生物・環境の専門分野に関する授業を受けてから、第2学年進級時に、自分が学びたい専門分野として4つの主専攻(機械・制御系、電気・電子系、情報系、化学・生物・環境系)の中から1つを選択し、学年が進行するにつれて深い専門知識と高度な技術を学びます。

さらに、主専攻とは異なる分野を副専攻として1つ選択し、その分野の基本的な知識を学びます。

グローバル化に力を入れた教育では、語学力だけでなく、他国の文化や価値観等を学び、地球規模の課題を考えることができる能力や他国の人々と一緒に課題解決に取り組むことのできるコミュニケーション能力等を身につけます。副専攻には、この教育にさらに力を入れたグローバル副専攻も設けています。

国際創造工学科のディプロマ・ポリシー (卒業認定の方針)

国際創造工学科は、社会人として必要な教養、技術者として必要な工学の専門知識を身に付け、国際社会で幅広い課題に意欲的に取り組むことの出来る、創造性豊かな、たくましい人材を育成するため、本校に在籍し、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

卒業までに修得する能力 (学習・教育目標)

- (A) 工学の理念に基づいて、専門工学の基礎知識を修得できる能力
- (B) 専門工学と人文・社会科学の知識・技術を総合的に活用し、自らが立てた課題を解決できる能力
- (C) 国際的な視野に立って他者と協働しながら社会的課題に取り組むことのできる、姿勢と行動力およびコミュニケーション能力

6 主専攻（系）の紹介

○ 機械・制御系

自動車やロボットなどの機械には、情報通信技術（ICT）や人工知能（AI）といった他工学分野の知能化・システム化された革新的な技術が不可欠で、その重要性は今後ますます大きくなります。本系では機械、電気電子、コンピュータ分野を整理・統合し、社会のニーズに対応する機械系、制御系の発展的な科目群を構成しています。また、第4学年以降は学生の進路に応じて、機械コースと制御コースのコース選択制を導入しています。さらに、共通科目や副専攻体制で、次世代のメカトロニクスや知能システムの開発から生産に係わる幅広い分野を担える人材の育成を目的としています。

また他方で、世界の生産拠点となりつつあるアジア諸国に高い技術力と柔軟な発想で国際社会に貢献できる人材を送り出すことも求められています。本校はこれまでも近隣に位置する大手電機メーカーをはじめとして、関連会社に多くの人材を送り、地域社会に貢献してきた実績があります。今後も国内外を問わず、確かな知識と技術を身に付け、高付加価値のある製品づくりを担う技術者を輩出できるように教育内容をさらに工夫していきます。

○ 電気・電子系

電気・電子系の技術者は、電力会社や電機メーカーだけでなく自動車、医療、鉄鋼、さらには化学、薬品関連など、社会のあらゆる分野で必要とされています。

たとえば、自動車、先端医療機器などの分野においても、従来は電気・電子系の対象でなかった製品にも最新の電気・電子・情報・通信技術が搭載され、多彩な機能を有するようになりました。また様々な製品を生み出す工場の生産ラインにおいても、電気・電子技術を用いて高度に制御されています。一方、産業界はもちろん一般家庭においても、太陽光発電、風力発電など再生可能エネルギーと言われるクリーンなエネルギーの供給がますます増えており、これらを支えるため電気・電子技術は重要な役割を果たしています。

このように、多方面で急速に発展し続けている電気・電子技術を効率よく修得できるよう、電気・電子、電子制御、情報、通信の4つの分野科目を1つの系に統合しました。本系では、2学年で電気電子工学の基礎科目を、3学年時は電子回路、電磁気学、電子工学、コンピュータとデジタル回路の基本となる専門科目を、4学年以降はネットワークのハードウェア、電子制御、無線通信、パワーエレクトロニクスや再生可能エネルギーなどに関する専門性の高い科目を学びます。低学年からアクティブ学習法を導入し、少人数によるゼミナール授業、実習、工学実験を通して、クラスメイトと協力し合い自ら学び力を修得するように授業内容が構成されています。急速に進化している現社会の要請に応えられる高いコミュニケーション能力を有し、創造性豊富な専門知識を兼ね備えた人材を育成します。

○ 情報系

今日、コンピュータやインターネットは私たちの生活に欠かせない存在です。特に、スマートフォンやインターネットショッピングなどは、多くの人にとって日常生活を送る上での身近なツールといえます。また、近年、日常生活で使用する身近なものをインターネットに接続する技術を利用したサービスや、これらのサービスの普及によりインターネット上に分散された大量のデータ（ビッグデータ）を活用する技術などが注目を集めています。このようなインターネットを利用した様々な新サービスを作り出す人材が今後更に求められます。

情報系では、このような社会のニーズに応える人材を育てるために、情報技術分野の全般について授業や実験を通して基礎から応用までを学びます。全ての学年でコンピュータや様々な周辺機器を使った授業があるのが情報系の特色のひとつです。低学年では「離散数学」「論理回路」「情報理論」「コンピュータアーキテクチャ」などの授業を通して基礎知識を身につけます。高学年では「情報ネットワーク」「コンピュータグラフィックス」「データベース」「情報セキュリティ」などのより専門性の高い科目を学び、情報技術分野についての専門知識と技術力の強化を図ります。実験や卒業研究では少人数教育を重視し、講義で学

んだ理論や知識の定着を図り、「考える力」「創造力」「表現力」「コミュニケーション力」をもった実践的技術者、情報技術分野で社会に貢献できる人材を育成します。

○ 化学・生物・環境系

現在私たちは、環境破壊、エネルギー、地球温暖化、人口増加等の問題を抱えており、その解決のために新しい機能性材料の開発や地球にやさしい化学技術、持続可能な発展のための新技術の創造が不可欠となっています。本系は、このような時代の要請に応えるために、応用化学分野に生物科学や環境科学を加えた系であり、複合した領域の学修成果を基にした柔軟な思考力と創造性に満ちた、しかも人間性豊かな科学技術者を育成することを目指しています。

本系では、基礎科目に力を入れ、主専攻専門科目に無理なく結び付けられるように授業科目が構成されています。また、第4学年以降の教育内容は、化学系基幹科目を学習した上で、応用化学、材料工学、生物資源工学、環境保全工学などの自分に合った進路に対応できるような分野の勉強を積み上げていくことができるようになっています。

さらに、実験実習や卒業研究を通して研究者・技術者として研究能力を高め、新しい技術や製品開発に応用発展ができるような次世代産業で活躍できる人材を育成します。

7 副専攻(系)の紹介

機械・制御系、電気・電子系、情報系、化学・生物・環境系では、その分野の基本的な内容を幅広く学びます。グローバル系では基礎を英語で学べる科目を設置するとともに、国内外の大学に在籍する外国籍学生と一緒に課題解決に向けた方策を討議するなどの体験学習なども行います。

8 一般教育科目について

国語、数学、理科、社会、英語、体育、芸術などの一般教育科目は、専門教育を学習するための基礎教養として必須であるばかりでなく、心身ともに健康で感性豊かな人間性を育むために重要なものです。本校ではこれらの科目を、専門学科の教育と関連を保ちながら学習を進めていきます。

9 専攻科の紹介

専攻科は、5年間の高専教育の上に、2年間の高度な教育を行うことを目的に平成13年に設置されました。実践的な研究開発ができる技術者、創造性に優れた技術者、広い視野をもった人間性豊かな技術者を育てます。

専攻科を修了し、一定の条件を満たした者については、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の行う審査を受けて、大学を卒業した者と同等の学力があると認められた場合に、学士(工学)の学位を取得できます。

本校の専攻科は1専攻ですが、機械工学コース、電気電子工学コース、情報工学コース、応用化学コースの4コースが設けられています。本校専攻科の専攻名と定員は以下のとおりです。

専攻名 産業技術システムデザイン工学専攻
定員 20名

10 学 寮

団体生活を通して自律の精神を養い、人格形成を助成することを目的として学寮が設置されています。

令和5年度現在、全学年の合計で入寮可能な人数は男子寮が169名、女子寮が58名です。学寮には、1年生から3年生までの学生が入寮することができます。なお、4年生以上に入寮更新を希望する場合、選出された者だけが指導寮生として在寮することが出来ます。

また、令和4年4月より日本人学生と留学生が共に生活し、異文化を理解できるようシェアハウス型の棟(虹友館)が新設されました。

(1) 学寮施設の概要

- ・鉄筋コンクリート造り5棟

- ・机，椅子，ベッド，本棚，ロッカー等は備付け
- ・エアコン
- ・食堂，補食室，談話室，トイレ，浴室，洗濯機，乾燥機あり

(2) 所要経費（予定額）

①寄 宿 料（個室）	月 額	800円
" （2人部屋）	"	700円
②寮 費 食 費	月 額	給食日数×1,409円（1日3食分）
共通経費	月 額	16,500円（3月は徴収しない）
居室エアコン使用電気料		
	年 額	3,000円（左記金額を超過した場合は，追加徴収する）
③入 寮 費		3,000円（入寮時のみ）
④寮生会費	月 額	500円

※ 寮費等は物価上昇等により変動することがあります。

11 入学時に要する経費等（予定額）

(1) 入 学 料	84,600円
(2) 授 業 料（前期分）	117,300円（年額234,600円）
(3) 学生会入会金	1,000円
(4) 学生会費（前期分）	3,000円（年額6,000円）
(5) 教科書代	約 33,000円（1年生）
(6) ノートP C	約 60,000円
(7) 体育服装等代	約 28,000円
合 計	約 326,900円

※ 入学料及び授業料の改定が行われた場合には，改定時から新入学料及び新授業料が適用されます。

※ その他に，後援会費（入会金20,000円，年額23,000円）があります。

※ ノートP Cの経費は令和5年度の例です。入学手続説明会までに，ノートP Cの経費及び必要な仕様等を提示します。その仕様を満たしたノートP C（又はタブレットP C）をお持ちの方は購入不要です。

※ 進級時には，学年毎の教科書代や実験教材費などが必要になります。4年生では，研修旅行の旅費（約6万円）が必要になります。

12 高等学校等就学支援金制度

公立学校に係る授業料の不徴収及び高等学校等就学支援金の支給に関する法律（平成22年4月1日施行）により，本校の学生1～3年生（在籍期間36ヶ月まで）は，公立高等学校の授業料と同額相当（1名月額9,900円）の就学支援金の支給を受けることができますので，授業料はこの金額を差し引いた額を納入することになります。ただし，家庭の所得に応じて，上記金額（1名月額9,900円）が支給されない場合と，さらに加算される場合があります。

また，保護者の失職，倒産などの家計急変により収入が激減した場合，高等学校等就学支援金の支給額に反映されるまでの間，家計急変後の収入状況をもとに算出される就学支援金に相当する額を支給する「高等学校等家計急変支援金制度」があります。

※高等学校等就学支援金制度及び高等学校等家計急変支援金制度は学生本人（保護者等）が直接受け取るものではなく、学校が学生本人に代わって支援金を受取り、授業料に充当します。

13 入学料，授業料免除制度

(1) 入学料免除

入学前1年以内において、本校に入学する者の学資を主として負担している者が死亡，又は本校に入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合，その他学校長が相当と認める事由により入学料の納付が著しく困難であると認められる場合は，本人の申請により学内選考を経て機構が審査し，承認されれば入学料の全額又は半額を免除することがあります。

(2) 授業料免除

学資を主として負担している者が死亡した場合又は学生若しくは学資負担者が半壊・床上浸水等以上の風水害等の災害を受けた場合，本人の申請により学内審査を経て，災害等が発生した翌期の授業料の全額が免除されます。

※ 入学料，授業料とも，納入期日までに納付が困難なときに納期を遅らせる徴収猶予制度もあります。

14 奨学金制度

学業，人物ともに優れ，健康でかつ経済的理由により修学に困難がある学生に貸与される奨学金があります。本人の申請により学内審査で承認されれば奨学生として推薦します。

主なものに，日本学生支援機構の貸与奨学金の募集が4月にあります。

15 学校災害共済給付制度(日本スポーツ振興センター)

この制度は学校の安全の普及・充実に努めるとともに，授業中，課外活動，登下校時など学校の管理下における学生の負傷，疾病，障害又は死亡に関して必要な給付を行うものです。

本校では，学生全員が加入しています。

16 学生会

(1) 執行部

(2) 図書委員会，応援委員会

(3) 茨香祭実行委員会

(4) 文化部 (10部)

茶道，自動車，写真，吹奏楽，天文，ボランティア，ラジオ，ロボット，World Wide Web，将棋

(5) 運動部 (13部)

弓道，剣道，硬式野球，サッカー，柔道，ソフトテニス，卓球，テニス，バスケットボール，バドミントン，バレーボール，陸上競技，水泳

(6) 同好会 (19団体)

漫画研究，ジャグリング，軽音楽，DTM，数学研究，物理学研究，E L S A C，国際交流，ティーセミナー，園芸環境，デジタルアーツ，文学，パーティーゲーム，女子バレーボール，フットサル，トレーニング研究，ダンス，eスポーツ，ダーツ

17 卒業後の進路について

卒業後の進路については、大きく分けて、就職と大学3年次等への編入学があり、本校では後者の進学者が多い傾向にあります。

令和4年度 卒業生の就職及び進学状況

国際創造工学科	卒業者数	就職者数	進学者数	各種学校	その他	未決定者数	求職者数	求人件数
機 械 ・ 制 御 系	68 (2)	27 (1)	39 (1)	0	1	1	27	729
電 気 ・ 電 子 系	36 (8)	22 (2)	13 (5)	0		1 (1)	22	719
情 報 系	39 (3) [2]	19 (1)	14 (2) [1]	0	2 [1]	4	19	624
化 学 ・ 生 物 ・ 環 境 系	38 (13) [2]	9 (1)	28 (12) [2]	0		1	9	529
合 計	181 (26) [4]	77 (5)	94 (20) [3]		3 [1]	7 (1)	77	2601

(注) ()は女子学生で内数。[]は留学生で内数。「その他」の欄は左記以外の者。*系には改組前の旧学科生を含む。

(求人件数は延数)

(1) 就 職

本校卒業生の就職は極めて順調です。産業界等から技術者として高い評価を受、それぞれの分野で活躍しています。

就職先一覧 (令和4年度卒業生)

会社名	機械・制御系	電気・電子系	情報系	化学・生物・環境系	合計	会社名	機械・制御系	電気・電子系	情報系	化学・生物・環境系	合計
アイリスオーヤマ(株)		1			1	ニプロ(株)		1			1
アクモス(株)		2	2		4	(国研)日本原子力研究開発機構	1		1		2
アステラス製薬(株)				1	1	(株)日本色材工業研究所				1	1
アマゾンジャパン合同会社	1				1	日本テクニカルシステム(株)			1		1
イガラシ綜業(株)	1				1	(株)NESI		1			1
(株)ウイルテック		1			1	バーソルR&D(株)			1		1
エクシオ・デジタルソリューションズ(株)		1			1	(株)東日本技術研究所			1		1
NTT東日本 - 南関東			1		1	日立建機(株)			1		1
(公財)核物質管理センター	1		2		3	日立交通テクノロジー(株)	1	1			2
(株)カネカ	1				1	(株)日立ハイテク	2	2	1		5
カバー(株)			1		1	(株)日立パワーソリューションズ		1			1
キャンモールド(株)	2				2	(株)日立ビルシステム	1	1			2
キリンビール(株)	1	1		1	3	不二製油(株)				1	1
(株)コアコンセプト・テクノロジー			1		1	富士ソフト(株)			1		1
工機ホールディングス(株)	1				1	富士通(株)			1		1
(株)神戸工業試験場				1	1	富士電機(株)	1				1
(独)国立印刷局	1		1		2	本田技研工業(株)	1				1
(株)小松製作所	1				1	三菱電機ビルソリューションズ(株)		1			1
コロナ電気(株)		1			1	ヤフー(株)			1		1
(株)SAYコンピュータ	1				1	山田車体自動車(株)	1				1
三機工業(株)		1			1	雪印メグミルク(株)	1				1
(株)JSD			1		1	ルネサスセミコンダクタマニファクチャリング(株)	2				2
JX金属(株)		1			1	レフィクシア(株)			1		1
(株)JERA		1			1						
スズキ(株)	1				1						
(株)SUBARU	1				1						
SUBARUテクノ(株)		1			1						
DIC(株)				1	1						
電源開発(株)		2			2						
東京ガス(株)	1				1						
東京電力ホールディングス(株)		1			1						
東洋インキSCホールディングス(株)				1	1						
東レ(株)				1	1						
トヨタ自動車(株)	1				1						
(株)ニコン	1				1						
日東電工(株)				1	1	合 計	27	22	19	9	77

(五十音順)

(2) 進 学

高専の卒業生は、大学に編入学できます。多くの国公立大学が、高専等卒業生のために特別な定員枠を定めて編入学生を受け入れています。例年、本校卒業生の約6割は、大学の3年次や高専の専攻科に進学しています。本校には専攻科が設置されており、本科卒業後、更に高度な2年間の勉学を積み重ねると、大学卒業と同等の学士を取得することができます。現在、専攻科には42名が在学し、勉学と研究に励んでいます。

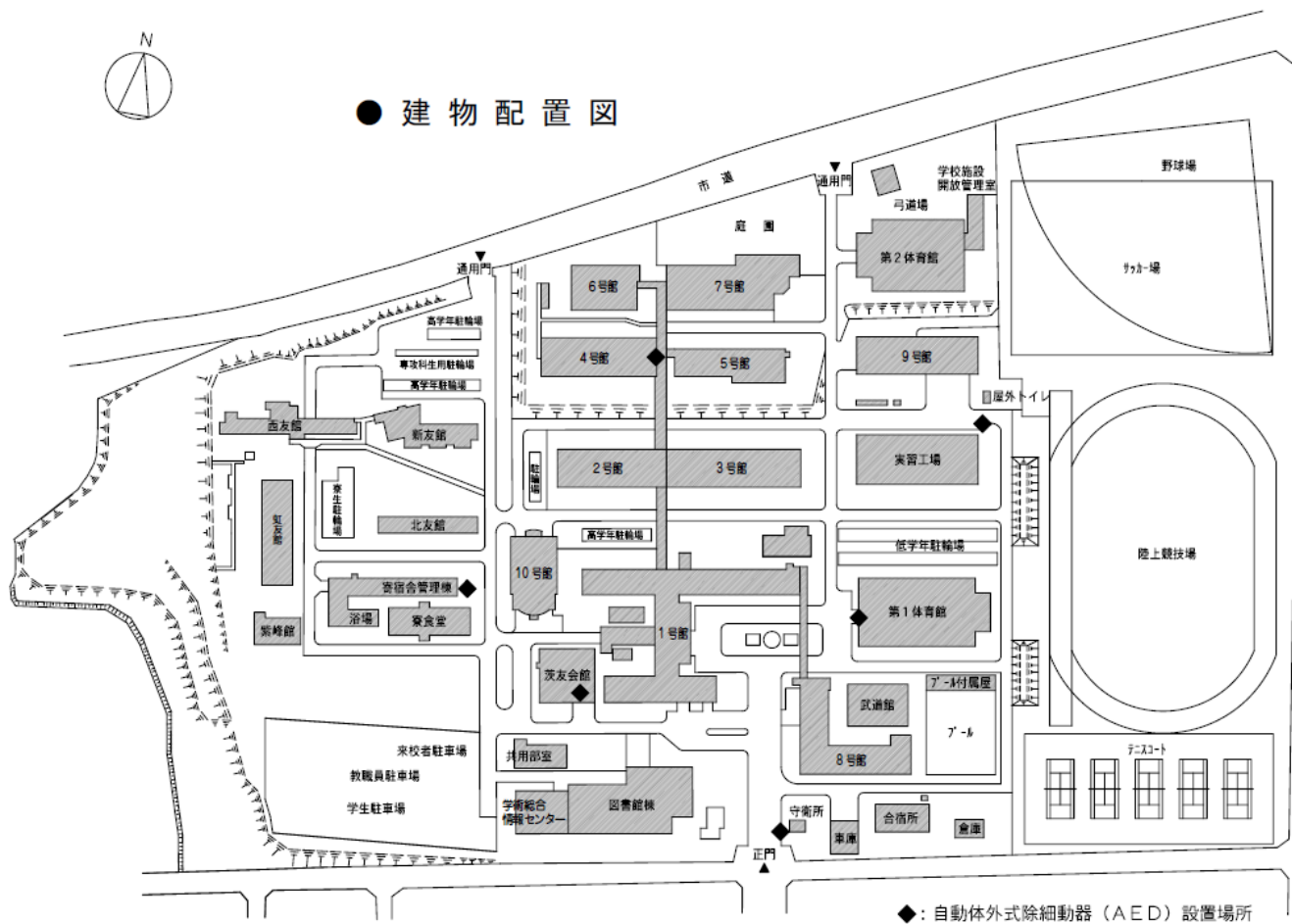
進学先一覧（令和4年度卒業生）

大学名等	機械・制御系	電気・電子系	情報系	化学・生物・環境系	合計	大学名等	機械・制御系	電気・電子系	情報系	化学・生物・環境系	合計
北海道大学	1	1			2	名古屋大学	2				2
室蘭工業大学	1				1	豊橋技術科学大学	5		2	2	9
秋田大学	1				1	奈良女子大学				1	1
山形大学	1				1	神戸大学		1			1
宇都宮大学				1	1	広島大学				1	1
茨城大学	4	1	2	4	11	九州大学	1				1
筑波大学	1			5	6	琉球大学	1	1			2
千葉大学	2	1			3	公立諏訪東京理科大学		1			1
東京大学			2		2	千葉工業大学	2	1			3
東京工業大学		1		1	2	東京都市大学	1				1
東京農工大学	1			2 [1]	3 [1]						
電気通信大学	2				2						
新潟大学	1				1						
長岡技術科学大学	5	2		1	8						
信州大学	1			2	3	茨城高専専攻科	5	3	8 [1]	7 [1]	23 [2]
山梨大学	1				1	合 計	39	13	14 [1]	28 [2]	94 [3]
金沢大学				1	1						

18 学校施設



● 建物配置図



(1) 敷 地 100,489^m²

(2) 施設の概要

校舎（1～10号館，実習工場，体育館，武道館，プール，弓道場，福利施設，図書館，学術総合情報センター，課外活動施設等） 24,939^m²

学 寮 6,110^m² 合 計 31,049^m²